

E . 不定形

1 . 命令法と仮定法現在

命令法を考える際に、命令的接続法(『現代英語文法大学編』P.76)や仮定法による命令(『歴史的にさぐる現代の英文法』P.140)を検討すると、仮定法現在は本当に仮定法なのであろうかという疑問がわいてくる。仮定法現在は要求、命令、提案などを表す主節の動詞の目的となる従属節中の動詞が不定詞となる現象であるが、もともと仮定法が意味論的に命令法に近い内容を示すことがあり、仮定法現在の従属節の内容は命令法に主語がついたような形をしている。意味論的にも従属節の内容は命令文との差異はないものと思われる。現代のイギリス英語では仮定法現在に should を加えた形 すなわち、直説法で助動詞の過去形を用いた表現に代わってしまっている。たとえば野球の選手がバッターボックスでストライクをとられた時に “Should have !”(畜生！やるんだった！)とつぶやくことがあるというのだが、これは “I should have done....” の省略形ともとれるが、命令法も主語の省略形といわれることから、この “Should have !” も命令法になるのではないだろうか。あるいは、命令法こそ “I should have done....” の省略形と同意ということかもわからない。助動詞構文は命令法より新しいもので後発であるため、命令法が “I should have done....” の省略形ではありえないが、将来的に命令法が “Should ~ !” の形の省略形として、すなわち、今日の仮定法と同様に命令法が直説法の助動詞構文で説明される日が来る可能性はあるだろうか。ここで “Should ~ !” は意味論的に “命令” というよりも “後悔” であるし、形態的にも直説法過去形による思考内世界の表現であるから、命令を表すには直説法現在形のほうが外界に実現される感覚としてふさわしい。すなわち、命令法は直説法現在するとき “命令”、直説法過去するとき “後悔” を表すといってよいであろう。ただし “Should ~ !” のような命令法過去(直説法過去)の助動詞の省略はありえない。直説法現在と紛らわしいからである。第一、仮定法現在は仮想世界の表現であり、命令法現在は外界への表現である。命令文は直説法現在の助動詞の省略形として説明されることは可能であろう。おそらく命令は will(直説法現在)の省略と説明される。すると事実上全ての法が形態的に直説法現在と直説法過去との2法に収束することとなる。過去の話も仮想の話も後悔(命令法過去形)も to 不定詞句も頭の中の話であり、MINDの世界の話である。やはり英語の形態的な2時制は守られるわけである。